

人権啓発作品展 作文部門 優秀賞

明石市の人権啓発活動の一環として行われている、作品募集に応募した作文の中から、3 組の の作文が優秀賞に選ばれ、今日、市民会館で発表しました。たくさんの人の前で発表するのは随分緊張したと思いますが、よく頑張りました。せっかくなのでみんなにもその作文を紹介します。

「1本の白いつえ」 二見中学校 1年

ぼくのおばさんは、小学校 3 年生の時に緑内障という病気になってしまったそうです。小学校 4 年生になったときには、もう完全に視力を失ってしまいました。今はもう、光も見えません。

ぼくは、そんなおばさんを小さいころから見ていたので、それが普通だと思っていました。目が見えなくても、1本のつえをついて遊びにも行くし、仕事にも行っているし、昔は、箏やピアノを習っていて、家には点字をうてるものがありました。家に行ったときも、僕の体を触ってもらって、大きくなったことを教えています。おばさんは、ぼくの顔などは全く知りません。だから、ぼくの鼻や耳などを触っています。

ぼくにとっては普通のおばさんですが、他の人から見たら、かわいそうなどと思う人がいると思います。しかし、決してかわいそうではありません。「目が見えない。」だからかわいそうというのは、ぼくは違うと思います。ぼくたちには感じない、たくさんの人のやさしさなどがわかると思います。

おばさんにとって大事なことは、さまざまな災害です。最近では、おばさんが乗っていた電車が事故にあい、「電車を乗り換えてください。」と言われましたが、目が見えないので乗り換えができなくて困ったということがありました。けど、駅員さんなどが助けてくれたそうです。こういうとき、目の不自由な人だけでなく、耳の聞こえない人や、車いすの人などが、どういう気持ちになっているだろうと思います。目が見えない人は、耳でしか情報が入ってきません。そういうとき、ぼくは何をしたらいいのかを考えました。まず、声をかけること。でも、本当にあったときに、声をかけることができるのかとも思います。とても勇気のいることで、今のぼくにできるかはわかりません。でも、その勇気があれば困っている人を助けられると思います。1つの勇気があれば、困っている人の役に立つことができるのです。みんながそれをする、もっともっとたくさんの人の役に立てると思います。

以前、テレビで西日本豪雨の時の避難指示のニュースが報道されていました。おじいさんとおばあさんは2人暮らし。そのおじいさんは体が不自由で、避難をしたらみんなに迷惑がかかるとい、2人は避難せず、家にいて、土砂に流されて亡くなったそうです。

ぼくはそのニュースを見て、迷惑だとは思わないし、こういうときだからこそ迷惑をかけてもいいと思いました。

人は迷惑をかけながら生きています。けど、「良い迷惑」と「悪い迷惑」があると、お母さんは言います。ぼくはまだ、「良い迷惑」と「悪い迷惑」の違いはわかりませんが、これからたくさんの人と出会い、学び、これから、この2つの違いについても気づいていきたいと

思います。また、人の役に立てるように、日ごろから困っている人を助けていきたい
と思います。